

「JR 東労組を憂う会」に対する本部 OB 会の見解

JR 東労組本部 OB 会は、6 月 25 日第 1 回役員会を開催し「JR 東労組を憂う会」は JR 東労組破壊であることを全会一致で確認した。

JR 東労組第 35 回臨時大会後、4 月 26 日付けで「憂う会通信」なるものが発行された。東京地本内の役員を歴任した 4 名の OB 会員が中心となり代表者に就任し、組織の拡大を目的に、その組織化のために“通信”が活用されている。内容は、12 地方本部が丸となって組織の再整備、再構築のために奮闘する JR 東労組を「御用組合」と断定している。また、失った信頼を取り戻すために開催した第 35 回臨時大会を「無効」と言うに至っては、臨時大会を創り上げた全ての組合員に対する背信行為であり、団結を乱し、組織の混乱と JR 東労組破壊を目的としたものであると断定せざるを得ない。

さらに、JR 総連に対しては「連絡調整機関」と規定し、JR 総連通信号外を「犯罪的な闘争破壊だ」としている。また、事実をねじ曲げ JR 東労組現執行部を「内部の裏切り者」と規定し「無責任で、卑劣な連中」などと口汚く罵っている。

本部 OB 会は、5 月 17 日に開催した第 22 回定期総会で、JR 東労組を支えられる本部 OB 会の新たな方針を決定した。総会宣言では「老害」にならないことが、最大の支援であることを確認した。「憂う会」は、その決定に反するものである。

JR 東労組第 36 回定期大会および JR 総連第 34 回定期大会において、「憂う会」は JR 東労組および現執行部、ならびに JR 総連の破壊と弱体化を目的に活動する組織であることを確認した。また、「JR 東労組の現状を糺し、国鉄改革の精神を忘れないための JR 東労組 OB の連絡会準備会」という組織も発足しているようだ。内容は「憂う会」と同質で、現執行部と JR 東労組の今後のたたかいを真っ向から否定するものである。組合員の苦しいたたかいに迫らず、組合員に向き合い続けてきた役員の苦しみにも思いを馳せることの出来ない者達の、批判のための批判を本部 OB 会は断じて許さない。

JR 東労組は今試練に立たされている。しかし、12 地方本部が団結し決定された方針のもと進んでいけば、必ずや組合員の信頼を取り戻し、脱退者の再加入の取り組みも前進するだろう。JR 総連および JR 総連に結集する各単組は、JR 東労組・現執行部と固く連帯してたたかっていくことを確認している。

本部 OB 会はあらゆる組織破壊攻撃を企む者達を許さず、「老害」になることなく、厳しい職場状況で苦しいたたかいを余儀なくされている、現役組合員に思いを馳せ連帯し、再加入の取り組みを応援しよう。

2018年6月25日

JR 東労組本部 OB 会